加入推進のポイントを学ぶ
農年特別研修会
農業者年金の認知度アップを

農業会議、JA大阪中央会、独立行政法人農業者年金基金は9月29日、大阪市内・JA大阪センタービルで農業者年金加入推進特別研修会を開催。府内の農業委員会委員、加入推進部長、事務局職員、JAの農業者年金担当者など27人が出席した。

研修会では、初めに制度説明動画「農業者年金加入のすすめ」と「他の制度と農業者年金」を視聴し、農業者年金制度の基礎知識とNISAや国民年金基金など他の制度と比較した際のメリット・デメリットを確認。

続いて農業者年金基金の黒田夏樹理事長が「農業者年金の加入推進について」をテーマに講演を行った。

黒田氏は冒頭で、大阪府内の100歳以上の人口が9月1日時点で5264人に上ることに触れ、長寿社会が進展する中、老後生活を支える年金の重要性は一層高まっていると指摘した。老後生活の期間を見通すことは困難で、貯蓄を計画的に取り崩して生活資金を確保する方法には限界があると説明。農業者年金は生涯に渡って受給できるため、長生きによる老後資金の枯渇リスクに備えられると示した。

次に、他の制度と農業者年金の資産運用の違いについて言及。国民年金基金では、運用実績に関わらず、予定利率を基に年金額を算定するが、一方、農業者年金では運用実績が年金額に反映される点が特徴であると解説した。農業者年金の平成14年から令和7年度までの平均運用利回りは3・13%となっており、長期的に安定した運用実績を上げているとした。

黒田氏は最後に、新規加入者を対象としたアンケート結果から、農業者年金の認知度が低い現状を指摘。「農業者にとって多くのメリットがある農業者年金が、知られないままとなっている状況は何としても避けたい。まずは制度の周知徹底を目標として、加入推進に取り組んでほしい」と締めくくった。

パネルディスカッション
農業者年金の魅力を語る

講演後、全国農業委員会女性協議会の道下和子会長と黒田氏が「女性から見た農業者年金の魅力」をテーマに、パネルディスカッションを実施した。

道下氏は全国の100歳以上の人口約10万人のうち約88%を女性が占めていることに触れ、女性にとって長生きへの備えが重要であると指摘。また、自分より年上の女性が充実した人生を送る姿を目にした経験から、65歳以降の人生を「ゴールデンエイジ（若い世代から憧れられる円熟した世代）」と呼んでいると紹介した。農業を引退した後の人生をいかに充実させるかは本人次第であり、その実現には農業者年金による経済的な備えが重要だと述べた。

これを受け、黒田氏は、老後生活にゆとりをもたらす年金の上乗せ部分を、農業者は自ら準備する必要があると説明。農業者年金の受給額について、平成14年から令和7年度末まで月額保険料2万円で積み立てた場合を例に挙げ、納付保険料総額576万円に対し、加入期間の実際の複利効果を踏まえると年金原資は901万円になると試算を示した。また、保険料の全額が社会保険料控除の対象となるため、税率15・1%と仮定して試算すると24年間で約87万円の節税効果が見込まれると紹介。農業者年金が老後の生活を支える上で大きな役割を果たすことを強調した。

最後に、道下氏は「農業者の方が元気に老後を楽しめる生活ができるように、まずは農業者年金を知る機会を作って欲しい」と呼びかけた。黒田氏も「最初は雑談の中で農業者年金の名前を出すところから加入推進活動を始めてほしい」と述べ、身近な会話をきっかけに制度理解を広げていく大切さを訴えた。（林佑）


当日のパネルディスカッションの様子

農業者年金特設サイト公開中

近畿府県農業会議は令和8年11月1日～令和9年1月29日、YouTube（ユーチューブ）やX（旧ツイッター）等を活用し、農業者年金制度の動画広告配信を実施している。家族が集まる機会の多い年末年始の期間に制度をPRすることで、親子や夫婦での農業者年金への加入促進を図る。

動画広告から誘導する特設ページ（下図QRコードからアクセス可能）では、農業者年金のメリットを分かりやすく紹介。保険料の全額が社会保険料控除の対象となる等の税制面での優遇措置や、40歳未満の農業者を対象とした保険料の国庫補助（政策支援）など、制度のポイントを簡潔にまとめている。（林佑）